

第37回 北海道都市問題会議

【開催テーマ】

健康都市の探求

—スポーツ交流による生活文化の創造—

【開催日】

平成25年10月18日(金)～19日(土)

【開催地】

網走市

【会 場】

網走市文化・交流センター

網走市北2条西3丁目3番地 0152-43-3704

網走市は平成24年7月に、北海道内の自治体としては初めて、WHO（世界保健機関）が提唱する「健康都市連合」に加盟しました（現在、国内28都市が加盟）。健康都市プロジェクトを提唱したトレバー・ハンコックとレオナルド・ダールは「健康都市とは、健康を支える物的および社会的環境を創り、向上させ、そこに住む人々が相互に支えあいながら生活する機能を最大限に活かすことのできるように、地域の資源をつねに発展させる都市である」と定義します。この理念を反映した網走市勢要覧『豊かなオホーツクに活みなぎるまち網走—健康は、まちの成長力—』は、① 健康な市民（医療・福祉・子育て・文化）② 健康な経済（農業・漁業・新産業・観光）、③ 健康なまち（環境・安全・コミュニティ）を三本柱として構成されています。

これまで網走市の対外的なイメージは、豊かな農水産物、オホーツク海を埋め尽くす冬の流氷と網走監獄に代表される観光資源、モヨロ貝塚に代表されるオホーツク文化、オホーツク総合振興局と網走地方气象台などの行政機能によって形づくられてきました。

さらに、昭和63年から始まったラグビー合宿は、平成4年にラグビー日本代表チームが合宿を行うなど現在、トップリーグに所属するチームが訪れる合宿地「北のスポーツ基地 網走」となっており、オホーツク圏域における「ヘルスツーリズム」という新境地を切り開きました。

今回の都市問題会議では、滞在者が享受する食と景観の感動的な豊かさと、市民が享受する健康的な生活文化の豊かさの接点にスポーツを位置づけます。そして、「健康都市＝網走」というゴールに、スポーツ振興を経路として到達する新ルートを示します。

「健康都市」において、スポーツはアスリートや観光客だけのものではなく、市民の日常生活に深く浸透したものであるべきです。市民とはもちろん老若男女、そして障がい者を含むあらゆる人々です。これらの人々がばらばらにスポーツを楽しむのではなく、スポーツを「する・みる・支える・学ぶ」ことにより交流するまちこそ、「健康都市」と呼ぶにふさわしいでしょう。

第37回 北海道都市問題会議プログラム

<第1日目/10月18日(金)>

■北海道都市問題会議

12:30~13:00	受付
13:00~13:30	開会 主催者代表挨拶 水谷 洋一 (網走市長) テーマ解説 筑和 正格 (北海道都市地域学会会長)
13:30~14:30	基調講演 木村 和彦 (早稲田大学スポーツ科学学術院教授) 「オホーツク圏域におけるスポーツビジネスの可能性」
14:30~14:40	休憩
14:40~16:00	パネルディスカッション 「網走市を中心としたオホーツク圏域のスポーツによる地域づくり」 パネリスト 水谷 洋一 (網走市長) 今野 一彦 (株式会社スポーツビジネス研究所代表取締役) 木村 和彦 (早稲田大学スポーツ科学学術院教授) 武藤 芳照 (日本体育大学日体大総合研究所所長) コーディネーター 原 文宏 (北海道開発技術センター地域政策研究所所長)
16:00~16:10	休憩
16:10~16:45	パネルディスカッション (聴衆参加・コメント・総括)
16:45~16:50	次期開催地挨拶・閉会

■交流会

17:30~19:00 交流会

<第2日目/10月19日(土)>

■市内テクニカルツアー

9:00~11:50 市内視察
・モヨロ貝塚館・大曲湖畔園地・網走スポーツトレーニングフィールド
※行程の詳細は変更となる場合があります。

■北海道都市地域学会セミナー

13:00~13:05 開会挨拶 筑和 正格 (北海道都市地域学会会長)
13:05~14:30 座談会
「アメニティ都市・網走—生活文化の魅力の発見と発信—」
語り手 石原 基 (NPO創成塾事務局)
米村 衛 (網走市郷土博物館館長)
千葉 博正 (札幌大学経営学部教授)
聞き手 筑和 正格 (北海道都市地域学会会長)
14:30 閉会